

僧。播磨の人。幼にして出家し、業を明峰素哲に受け、素哲の寂後無端祖環に師事すること数年。次いで實峰良秀に參して嗣法し、總持寺に出世し、應永二能登に龍護寺を創立した。

バイレイ 梅嶺 ↓ウスネジロザエモン 碓井治郎左衛門。

バイレイギヨクコウ 梅嶺玉香 石川郡曹洞宗大乘寺四十五代の住持。三河の人、池田氏。三河渭信寺の覺仙に受業嗣法し、安永三年越後大榮寺に首職となり、天明二年長州福昌寺に視察し、同年永平寺に勅住、七年加賀淨住寺に、寛政九年越中光嚴寺に遷り、享和三年二月廿五日大乘寺に入り開堂、文化元年病により泊船庵に退隨し、四年四月二十日光嚴寺にて寂した。

ハカマギ 袴着 藩政時代に士人の男兒は五歳から袴を穿たしめたので、四歳の十一月に袴着の祝儀を行つた。その際當人に紋服と上下とを着せしめ、大小刀を帶し、扇子を携へ、宴席に据ゑた碁盤に乗せて、客の祝詞を受けしめた。

ハカマスリギン 袴褶銀 藩政の時、下級の町役人などの手當として與へられる銀子をいうた。享保七年九月二十日附の文書に、『地子町組合頭袴褶銀之儀、跡々自分に取立受取來申候處、去年より右取立銀御場へ爲致持參、私共承届相渡申候。』とある類で、こゝに私共といふものは御算用場の横目肝煎である。

ハカマボウ 袴坊 加賀藩にて、高祿諸士の嫡男に近侍奉仕する者の稱呼で、身分により一人又は二人があつた。二三男に在つては、袴坊を使役しなかつた。

ハカリカケビヨウ 斗懸儀 百姓の租として收める米を、定納五斗の外にその口米五升六合を加へて、一俵に俵装したもので、寛永頃の文書に見える。

ハカリキリビヨウ 斗切儀 百姓の租として收める定納米を、一俵五斗に俵装し、その口米は別に集めて五斗俵としたものをいふ。正保頃の文書に見える。

バカヲドリ 馬鹿踊 元和の頃馬鹿踊が民間に行はれた。同六年將軍徳川秀忠の女和子が、後水尾天皇の女御として入内した時、前田利常はその臣前田直之を京師に、奥村榮政を江戸に派して賀辭を上らしめ、城中に於いては上下に酒を賜ひ、市民亦悉く宴を張り、馬鹿踊を踏つて夜を徹した。その唱歌は『こは三條か釜の座か、一夜泊りてたゝら踏まう、佐渡と越後は筋むかひ。』といふのであつた。

ハギサカ 萩坂 河北郡利伽羅附近の地名であるといふ。建久七年十月十九日附の下俱利伽羅長樂寺住僧等可令早停止地頭濫妨四至内事と前書した下文に、『南限萩坂大道』とあり、三州紀聞にはそれを、『假生村領の内、はぎ坂と申坂有之候。頼朝公より俱利伽羅寄進狀にはぎ坂と申して有之由申傳候。』と解して居るが、この下文なるものは、その體を得ずして偽作の疑がある。

ハギノシマ 萩ノ島 石川郡鶴來の西手取川縁にあつたが、明和年中洪水の爲に河床となつたと傳へる。白山宮莊嚴講中記録に、貞治二年五月廿一日の晩景に佛眼坊の中閨又次郎が里中から登山せんとして萩ノ島を過ぎたことが書いてある。

ハギノヤ 萩ノ屋 鹿島郡豊田保に屬する部落。明治中に至り土川に併合せられた。

ハギハラスエマサ 萩原季昌 通稱又六・八兵衛。安永九年新番となり、天明五年父八兵衛の家督百石を襲ぎ、組外に列し、文化九年五十石を加へ、文政八年正月廿三日歿した。

ハギハラハチベエ 萩原八兵衛 初め勘太夫・新吾。御歩から出て、安永元年二月三十人頭となり、新知百石を受け、天明五年十二月隠居して是休と改め、寛政二年八月十日七十四歳を以て歿した。

ハギハラヒテツネ 萩原秀庸 通稱武左衛門。御算用場の吏であつた。文政四年秋河北郡傳燈寺内に本多利明の碑を建てた時、名を列してゐる。

ハクウ 白鳥 ↓フクマスマヤハクウ 福増屋白鳥。

ハクオウサイ 白鷗齋 金澤に於ける蕉風俳人の庵號。初め龜田屋小春之を稱したが、後世眉山門の樂平二代を襲ぎ、鹿裘も亦三代といふた。

ハクガクズカイ 白嶽圖解 一冊。金子有斐著。白山山中の名蹟勝地等の圖を載せて、邦文の説明がある。これから漢文の白山史・白山遊覽圖記に順次發展したのであらう。

ハクカザツタン 博伽雜談 ↓ハクカザツワ 博伽雜話。

ハクカザツワ 博伽雜話 六卷。多くは他書から採萃した武邊物語であるが、又藩内の事實の聞書も少々ある。卷末に寛延頃の事が記載せられるから、著作時代も略推定せられる。又一卷にした博伽雜談といふのがあるのは、前記の中前田氏に關したことをのみを抄

録したものである。著者の名は記されぬが、關山私記には邑巷軒蒙鳩であるとしてゐる。蒙鳩は丹羽四郎兵衛である。↓コクジンシウヒモンドウ 國事昌披問答。

ハクケイ 拍翼 ↓ナガエヤハクケイ 長江屋柏葉。

ハクサン 白山 ↓シラヤマ 白山。

ハクサンオンセン 白山温泉 ↓イチノセオンセン 市ノ瀬温泉。

ハクサンクウシヨウゴウコウジュウキロク 白山宮莊嚴講中記録 ↓シラヤマノミヤシヨウゴウコウジュウキロク 白山宮莊嚴講中記録。

ハクサンジ 白山寺 ↓シラヤマヒメジンジャ 白山比咩神社(十)。

ハクサンシヤカガダケ 白山釋迦岳 ↓シヤカガダケ 釋迦岳。

ハクサンスイ 白山水 石川郡野々市なる天満宮の向かうに、もと大乘寺の白山水といふのがあつて、白山の水が湧出するものであるといはれたが、今は無くなつた。刀工安信の刀銘に『以白山水二鍛之』とあるは、この事である。

ハクシ 薄帟 小松の俳人。色杉原・劍酒には月津薄子として記される。正徳五年此格集を出した。

ハクジュ 白樹 ↓タガミヤハクジュ 田上屋白樹。

ハクシユウ 白秀 金澤時宗玉泉寺十四代の僧。桂光院其阿白秀和尚といひ、寺主たること二十餘年、文政六年退座した。賦物連歌錦之書と題する連歌の作法書を遺してゐる。

ハクダラニ 白陀羅尼 一冊。金澤の俳人